

学校研究課題

I 研究主題

「思考力を鍛える ～クリティカルシンキングからのアプローチ～」

II 主題設定の理由

本校は、これまで、研究主題「思考力を鍛える～言語活動を核として～」を掲げ、授業力向上に取り組んできた。その成果として、各教科や学級活動において、日頃からグループワークや討論を頻繁に取り入れることで、生徒は当たり前のように活発に話し合い、仲間と楽しみながら学びあう姿勢が身につけているとともに、ポスターセッションやパソコンを用いたプレゼンテーション、ディベートなど数々の表現の場を経験することで、高い言語活用能力が培われている。また、深い思考の土台となる基礎基本の確実な習得を徹底し、それを活用する場として言語活動を組み込むことにより思考力を鍛えるという、本校の授業スタイルは一定確立されている。

しかしながら、言語活動が活発であるがゆえに、時には、独りよがりの発想に陥り、思考が偏ってまったり、自分の意見は発表するが、生徒相互のつながりに欠け、内容の深まりがみられなかったりするなど、多様な意見を受け止めて自分の考えを再構築していくという、学び合いからの質的な思考の高まりという点においては課題が残った。また、指導する教師側も、量的には言語活動を組み込んでいても、思考の質の向上に対して、どのようなアプローチをしていくかは、それぞれに委ねてきたため、研究に統一感が乏しかった。

そこで、本年度は、思考過程に「クリティカル・シンキング」の視点を導入することで、各教科とも共通のアプローチで、思考力を鍛える授業創りを目指す。「クリティカル・シンキング」とは、与えられた課題について、背景にあるさまざまな観点を考慮しながら、「物事を多様な観点から、論理的に考え、説得力のある答えを導く力」のことである。具体的には、クリティカル・シンキングの三つの要素（多面的多角的な視点・論理的思考・メタ認知）を、授業の中で意図的・計画的に組み入れる。学習課題の様々な面に着目しながら自分の考えを導き出し、物事を筋道立てて考え、表現し、更に自らの思考を客観的に捉えて意見交換することを通して、考えを再構築する過程である。それにより、思考力は鍛えられ、思考の質的な向上がより可視化できると考える。

そして、クリティカル・シンキングの導入については、中央教育審議会の答申（H28）や、大学入試改革のポイントとして、近年、文部科学省も重視しており、新しい大学入試制度の対象となる中学生にとって、今、身につけておかなければならない力でもある。

本校の研究は、最終的に向陽の校訓『自彊不息（自ら努めて止まない）』を目指すことに尽きる。その実現は『学ぶことが楽しいから（努めて止まない）』にあると考える。その『楽しさ』は、あくまでも知的でなければならない。生徒が主体的に学び続ける原動力を身につけるために、知的な関心意欲をいかに喚起するかは不変の課題である。教科によってその楽しさや魅力は異なるが、学習過程にクリティカル・シンキングを意図的・計画的に取り入れることで、自ら問い続ける姿勢の育成につながっていくと考える。

以上の理由で、本校は、研究主題を「思考力を鍛える～クリティカル・シンキングからのアプローチ～」とし、研究を深化させることとした。